

東日本大震災から10年 旭市



松戸支部
青山 貴仁



まず、この大震災でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げます。

震災から10年が経ち、月日が流れるのが一層早く感じるこの頃です。

10年前のあの日は仕事から事務所に戻り、一息ついていたところに突然、今まで体験したことがない揺れと、テレビに映し出される津波の映像にただただ驚くばかりでした。

私の住んでいる松戸市では幸いに被害は少なかったものの、計画停電があったことを覚えています。

(公社)千葉県建築士事務所協会では県内旭市の津波被害での応急危険度判定と浦安市の液状化現象による建築相談があり、私は過去に中越地震で越路町(現長岡市)に応急危険度判定で派遣された経験があるので、旭市の応急危険度判定に従事することにしました。

旭市の現地では津波被害が相当に酷く、ボランティアの方による活動が盛んに行われている中で応急危険度判定を行うのですが、被災された方々が涙を流しながら話をされるのを聞くことも多く、私自身は返す言葉が無く、とても辛かったことを思い出します。

応急危険度判定の範囲は広く、一日に50件の判定を行った日もありました。



私自身、今より若かったので、原付バイクで往復することができましたが、道中では給油するために長い列を作る車をいたるところで見かけたり、道路に亀裂や段差が多くあり震災の傷跡を体感しました。



私が経験して応急危険度判定に関して言えることは“習うより慣れよ”です。

今日現在、もし震災が発生したらこの時のように柔軟で身軽に、かつ体力的にも心配がなく動けるのか少々不安になりますが、普段の日常から防災への意識を持ち、耐震診断などの取り組みへの参加及び協力を積極的にしていくことが重要なのだと思います。

最後に千葉県の地形は半島で海に囲まれていますから、震災での津波被害や近年の台風被害があり厳しい反面、気候は温暖で良い所で風光明媚な所も多くあります。

その千葉県がこの二つの災害からどのくらい復興を遂げたのかを、この目で確かめに行きたいと考えているところです。

